



2024年12月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（非連結）

2024年8月8日

上場会社名 スターツ出版株式会社 上場取引所 東
コード番号 7849 URL <https://starts-pub.jp/>
代表者（役職名）代表取締役社長（氏名）菊地 修一
問合せ先責任者（役職名）常務取締役管理部長（氏名）金子 弘 TEL 03-6202-0311
半期報告書提出予定日 2024年8月9日 配当支払開始予定日 2024年9月20日
決算補足説明資料作成の有無：有
決算説明会開催の有無：有（アナリスト向け）

（百万円未満切捨て）

1. 2024年12月期第2四半期（中間期）の業績（2024年1月1日～2024年6月30日）

（1）経営成績（累計）

（％表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2024年12月期中間期	4,280	7.6	1,176	8.7	1,258	8.7	962	7.1
2023年12月期中間期	3,978	30.6	1,082	78.6	1,158	65.0	898	104.0

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
	円 銭	円 銭
2024年12月期中間期	250.66	—
2023年12月期中間期	233.94	—

（2）財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2024年12月期中間期	11,222	8,991	80.1	2,341.76
2023年12月期	10,587	8,170	77.2	2,127.97

（参考）自己資本 2024年12月期中間期 8,991百万円 2023年12月期 8,170百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2023年12月期	—	—	—	60.00	60.00
2024年12月期	—	30.00	—	—	—
2024年12月期（予想）	—	—	—	30.00	60.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2024年12月期の業績予想（2024年1月1日～2024年12月31日）

（％表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,500	1.9	2,400	5.6	2,500	5.6	1,820	2.4	474.00

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 中間財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(2) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更：無
- ② ①以外の会計方針の変更：無
- ③ 会計上の見積りの変更：無
- ④ 修正再表示：無

(3) 発行済株式数（普通株式）

- ① 期末発行済株式数（自己株式を含む）
- ② 期末自己株式数
- ③ 期中平均株式数（中間期）

2024年12月期中間期	3,840,000株	2023年12月期	3,840,000株
2024年12月期中間期	383株	2023年12月期	336株
2024年12月期中間期	3,839,623株	2023年12月期中間期	3,839,683株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手可能な情報に基づき作成したもので、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の業績等は今後の様々な要因によって大きく異なる可能性があります。なお、業績見通し等に関する事項はP. 3「1. 当中間決算に関する定性的情報の(3)業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当中間決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間貸借対照表	4
(2) 中間損益計算書	6
中間会計期間	6
(3) 中間キャッシュ・フロー計算書	7
(4) 中間財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	9

1. 当中間決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間会計期間におけるわが国経済は、企業収益や雇用・所得環境に改善の動きが見られる等、景気は緩やかな回復基調が続きました。しかしながら、中国経済の先行き懸念等による海外景気の下振れや円安の進行、資源価格及び原材料価格高騰等の影響により、先行きは依然として不透明な状況が続いております。

このような状況の中で、当社は「感動プロデュース企業へ」という経営ビジョンのもと「文化と笑顔の需要創造」をミッションに掲げ、紙・電子出版による書籍、コミック、雑誌の発行、「野いちご」等の小説サイトの運営、女性向けWEBサイト「オズモール」での情報発信や施設予約サービスの提供、イベント開催等とそれらを掛け合わせたPR・販促ソリューションの提供を軸として事業を運営してまいりました。

このような営業活動の結果、当中間会計期間の売上高は42億80百万円（前年同期比7.6%増）、営業利益は11億76百万円（前年同期比8.7%増）、経常利益は12億58百万円（前年同期比8.7%増）、中間純利益は9億62百万円（前年同期比7.1%増）となりました。

セグメントごとの経営成績は、次のとおりであります。

<書籍コンテンツ事業>

書籍コンテンツ事業では、自社で運営する小説サイト「野いちご」「ベリーズカフェ」「ノベマ!」を起点に、独自のマーケティングにより恋愛小説から異世界ファンタジー、ライト文芸まで幅広いジャンルの作品を書籍・コミックとして発刊しております。

当中間会計期間は、書籍・コミックの発刊点数の増加、マーケティングの徹底による読者ニーズに沿った商品展開、映像化等のIP展開やSNS等を活用した販促施策に注力してまいりました。書籍・コミックの売上高は、昨年度の映画化作品による増収効果の反動があったものの、ライト文芸レーベル「スターツ出版文庫」、異世界ファンタジーレーベル「グラストコミックス」、大人向け少女コミックレーベル「noicomi」が順調に売り上げを伸ばしたこと等により増加いたしました。個別のコンテンツでは、昨年12月に映画が公開された小説「あの花が咲く丘で、君とまた出会えたら。」、1月に第3弾が発刊された「すべての恋が終わるとしても」、1月及び5月に紙コミックが発刊された「鬼の花嫁」等が業績に寄与いたしました。

このような営業活動の結果、書籍コンテンツ事業の売上高は27億30百万円（前年同期比9.0%増）、営業利益は12億18百万円（前年同期比2.6%増）となりました。

<メディアソリューション事業>

メディアソリューション事業では、オリジナルのマーケティング・モデルを創造するという戦略のもと、当社独自の基準で厳選したレストラン、ビューティサロン、宿泊施設等の施設予約サービスを提供する「オズのプレミアム予約」と、「オズモール」「オズマガジン」「メトロミニッツ」等の東京地域密着の自社メディアとSNS、リアルイベント等を組合わせたPR・販促ソリューションを展開してまいりました。

「オズのプレミアム予約」では、利用者満足度の高い施設の開拓と予約プランの開発、名阪エリアの予約可能施設の拡大、SEO等のユーザー集客施策の強化、クーポン施策等のユーザー満足度の向上に注力してまいりました。また、大人数の宴会等の予約をコンシェルジュがサポートする宴会・貸切予約サービスを本格スタートするなど新たな取組みも実施しております。当中間会計期間の売上高は、レストラン予約の売上が好調に推移したことにより前年同期と比較して増加いたしました。

PR・販促ソリューションでは、「オズマガジン」等の東京地域密着メディアのブランドを活用した商業施設向けの集客支援、自治体向けのお出かけ支援、ヘルスケアマーケットへの販促支援サービスの提供等に注力してまいりました。当中間会計期間は「オズマガジン」の隔月刊化等に伴う雑誌発行点数の減少により前年同期と比較して販売売上が減少した一方で、商業施設向けの集客支援等の受注が堅調に推移したことにより、前年同期と比較して売上高は横ばいとなりました。また、雑誌発行点数の減少等により売上原価が減少いたしました。

このような営業活動の結果、メディアソリューション事業の売上高は15億50百万円（前年同期比5.2%増）、営業利益は32百万円（前年同期は営業損失40百万円）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債、純資産の状況

(資産)

当中間会計期間末の総資産は、前事業年度末と比べて6億34百万円増加し、112億22百万円となりました。

流動資産は、現金及び預金が7億82百万円増加した一方で、売掛金及び契約資産が2億67百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて5億3百万円増加し、99億2百万円となりました。

固定資産は、前事業年度末と比べて1億31百万円増加し、13億19百万円となりました。

(負債)

当中間会計期間末の負債は、前事業年度末と比べて1億86百万円減少し、22億30百万円となりました。

流動負債は、未払法人税等が95百万円、未払消費税が63百万円、買掛金が55百万円減少したこと等により、前事業年度末と比べて2億31百万円減少し、20億46百万円となりました。

固定負債は、前事業年度末と比べて45百万円増加し、1億84百万円となりました。

(純資産)

当中間会計期間末の純資産は、利益剰余金が中間純利益の計上により9億62百万円増加した一方で、配当金の支払により2億30百万円減少したこと等により、前事業年度末に比べて8億20百万円増加し、89億91百万円となりました。

②キャッシュ・フローの状況

当中間会計期間における現金および現金同等物（以下「資金」という。）は、前事業年度末に比べ7億82百万円増加し、56億26百万円となりました。

当中間会計期間における各キャッシュ・フローの状況は次のとおりであります。

(営業活動によるキャッシュ・フロー)

営業活動によるキャッシュ・フローは、法人税等の支払額4億30百万円、仕入債務の減少55百万円、棚卸資産の増加26百万円等による資金の使用の一方で、税引前中間純利益13億47百万円、売上債権の減少2億67百万円等の資金の獲得により、9億51百万円の資金を獲得（前年同期は9億4百万円の資金を獲得）いたしました。

(投資活動によるキャッシュ・フロー)

投資活動によるキャッシュ・フローは、「オズモール」のシステム開発等の無形固定資産の取得等による資金の使用による一方で、投資有価証券の売却に伴う収入89百万円の資金の獲得により、60百万円の資金を獲得（前年同期は26百万円の資金を使用）いたしました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

財務活動によるキャッシュ・フローは、配当金の支払等により、2億29百万円の資金を使用（前年同期は1億15百万円の資金を使用）いたしました。

(3) 業績予想などの将来予測情報に関する説明

業績予想につきましては、2024年2月13日の「2023年12月期 決算短信」で公表いたしました通期の業績予想に変更はありません。

2. 中間財務諸表及び主な注記

(1) 中間貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当中間会計期間 (2024年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	4,844,573	5,626,633
売掛金及び契約資産	2,738,045	2,470,246
製品	82,610	97,209
仕掛品	44,583	56,023
返品資産	110,923	114,792
前払費用	20,451	32,170
関係会社預け金	1,500,000	1,500,000
その他	59,171	6,809
貸倒引当金	△907	△1,405
流動資産合計	9,399,452	9,902,479
固定資産		
有形固定資産		
建物附属設備(純額)	34,502	32,386
工具、器具及び備品(純額)	16,998	15,454
有形固定資産合計	51,501	47,841
無形固定資産		
商標権	344	280
ソフトウェア	123,172	143,376
ソフトウェア仮勘定	28,451	7,008
電話加入権	2,376	2,376
無形固定資産合計	154,344	153,041
投資その他の資産		
親会社株式	634,854	735,357
投資有価証券	203,474	230,027
差入保証金	84,014	82,014
前払年金費用	12,932	40,460
その他	46,991	30,967
投資その他の資産合計	982,267	1,118,826
固定資産合計	1,188,113	1,319,710
資産合計	10,587,565	11,222,189

(単位：千円)

	前事業年度 (2023年12月31日)	当中間会計期間 (2024年6月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	553,261	497,375
未払金	123,649	99,690
未払費用	38,938	47,248
未払法人税等	405,672	310,351
未払事業所税	4,431	2,323
未払消費税等	107,970	44,162
前受金	10,871	4,516
預り金	28,783	23,108
賞与引当金	32,000	32,500
返金負債	845,137	854,221
ポイント引当金	127,660	131,089
流動負債合計	2,278,376	2,046,586
固定負債		
繰延税金負債	77,088	118,914
役員退職慰労引当金	61,400	65,225
固定負債合計	138,488	184,139
負債合計	2,416,864	2,230,725
純資産の部		
株主資本		
資本金	540,875	540,875
資本剰余金	536,125	536,125
利益剰余金	6,559,022	7,291,088
自己株式	△503	△688
株主資本合計	7,635,518	8,367,399
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	535,182	624,064
評価・換算差額等合計	535,182	624,064
純資産合計	8,170,700	8,991,463
負債純資産合計	10,587,565	11,222,189

(2) 中間損益計算書
(中間会計期間)

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
売上高	3,978,775	4,280,557
売上原価	1,849,112	1,902,267
売上総利益	2,129,663	2,378,290
販売費及び一般管理費	1,047,264	1,202,166
営業利益	1,082,398	1,176,123
営業外収益		
受取利息	3,729	3,734
受取配当金	67,666	74,426
雑収入	4,268	4,237
営業外収益合計	75,664	82,399
営業外費用		
為替差損	5	4
雑損失	35	13
営業外費用合計	41	17
経常利益	1,158,021	1,258,505
特別利益		
投資有価証券売却益	—	88,636
特別利益合計	—	88,636
税引前中間純利益	1,158,021	1,347,141
法人税、住民税及び事業税	257,902	382,106
法人税等調整額	1,855	2,589
法人税等合計	259,758	384,696
中間純利益	898,263	962,445

(3) 中間キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前中間会計期間 (自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)	当中間会計期間 (自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税引前中間純利益	1,158,021	1,347,141
減価償却費	33,632	32,484
投資有価証券売却損益(△は益)	—	△88,636
貸倒引当金の増減額(△は減少)	256	497
役員退職慰労引当金の増減額(△は減少)	3,800	3,825
賞与引当金の増減額(△は減少)	△16,500	500
返金負債の増減額(△は減少)	10,126	9,084
ポイント引当金の増減額(△は減少)	24,252	3,428
受取利息及び受取配当金	△71,395	△78,161
売上債権の増減額(△は増加)	420,378	267,799
棚卸資産の増減額(△は増加)	19,886	△26,039
返品資産の増減額(△は増加)	△3,670	△3,868
その他の資産の増減額(△は増加)	△55,892	△31,777
仕入債務の増減額(△は減少)	△13,659	△55,886
未払金の増減額(△は減少)	△53,885	△23,212
未払消費税等の増減額(△は減少)	△90,508	△63,808
その他の負債の増減額(△は減少)	△137,566	△5,828
その他	△1,469	16,036
小計	1,225,807	1,303,579
利息及び配当金の受取額	71,395	78,161
法人税等の支払額	△393,059	△430,008
営業活動によるキャッシュ・フロー	904,142	951,732
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△1,058	△2,353
無形固定資産の取得による支出	△24,893	△26,184
保険積立金の積立による支出	△694	△694
投資有価証券の売却による収入	—	89,700
その他	—	△152
投資活動によるキャッシュ・フロー	△26,645	60,315
財務活動によるキャッシュ・フロー		
配当金の支払額	△115,225	△229,803
自己株式の取得による支出	△153	△184
財務活動によるキャッシュ・フロー	△115,378	△229,987
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	762,118	782,060
現金及び現金同等物の期首残高	3,353,902	4,844,573
現金及び現金同等物の中間期末残高	4,116,021	5,626,633

(4) 中間財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間会計期間(自 2023年1月1日 至 2023年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	2,504,669	1,474,105	3,978,775	—	3,978,775
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,504,669	1,474,105	3,978,775	—	3,978,775
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,504,669	1,474,105	3,978,775	—	3,978,775
セグメント利益 又は損失	1,188,163	△40,767	1,147,396	△64,997	1,082,398

(注) 1. セグメント利益又は損失の調整額△64,997千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益又は損失は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

II 当中間会計期間(自 2024年1月1日 至 2024年6月30日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント		計	調整額(注1)	中間 損益計算書 計上額 (注2)
	書籍コンテンツ 事業	メディアソリューション事業			
売上高 顧客との契約から 生じる収益	2,730,468	1,550,089	4,280,557	—	4,280,557
その他の収益	—	—	—	—	—
外部顧客への売上高	2,730,468	1,550,089	4,280,557	—	4,280,557
セグメント間の内部 売上高又は振替高	—	—	—	—	—
計	2,730,468	1,550,089	4,280,557	—	4,280,557
セグメント利益	1,218,538	32,070	1,250,608	△74,485	1,176,123

(注) 1. セグメント利益の調整額△74,485千円は、各報告セグメントに配分していない全社費用になります。

2. セグメント利益は、中間損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。